

中間テストに向けて

来週の 20 日(木)から 1 学期中間テストが始まります。中学校に入って、最初の定期テストになります。みんなにはこのテストの意味を理解してもらい、それに向けての対策を考えてほしいです。

三滝中では年間 5 回の定期テストがあります(1・2 学期は中間・期末テスト、3 学期は学年末テストの合計 5 回)。テスト 1 週間前にテスト範囲が発表されます。同時に学習のポイントや課題(提出物)も提示されます。また部活動も一時停止になり、この時期を“テスト期間に入る”という言い方をすることもあります。

このテストは今まで学習してきた内容がどれだけ身についているかを確認するためのものです。テスト範囲をしっかりと勉強して当日に臨みましょう。そしてそれが返却されたら、どこができて、どこができていなかったのかを復習をしていく。それが定期テストの大きな流れです。

勉強の仕方のアドバイス

1 年生にとって、「テスト勉強ってどうやってしたらいいのかわからない」というのが正直なところでしょう。結論から言うと、ベストな勉強法というのは存在しません。「学問に王道はなし」と言われるのはそういう理由からです。でも、効果的な勉強の仕方はいくつかあります。



① 提出物って、なぜやるの？

中学校のテスト勉強というと、まずこの“提出物”があります。教科によっては、ワーク・問題集などと言われるものです。それらを有効に活用したいものです。

勉強は大きく入力と出力に分けられます。入力は教科書を読んだりノートを見直したりして、情報を脳に入れることです。それだけではテストで困ります。それを出力しないとだめです。出力とは、問題を解いたり人に話したりして情報を取り出して使うことです。この出力の練習をするのが、提出物などでの問題演習になります。よく答えを丸写して提出する人が見られますが、それではこの出力の効果が少なくなります。入力と出力の割合ですが、1 対 2 くらいがちょうどいいくらいです。例えば、1 時間英語の勉強をするならば、20 分間教科書やノートを見直して、40 分間は問題を解くといった具合です。脳は入力よりも出力を重視する、このことを覚えておいてください。

② 勉強はまとめてやるより、分けてやるほうが効果的

一度にたくさん勉強するのを「集中学習」、少しずつコツコツ勉強するのを「分散学習」と呼ばれます。後者のほうが効果的であると言われています。集中学習の一つ、いわゆる一夜漬けと呼ばれるやり方がありますが、これは全く効果がないわけではありません。この方法だと覚えたことが長く記憶に残らないようです。分散学習の効果を説明するとき、ロサンゼルス市の芝生の水やりの例を挙げるとわかりやすいです。1 週間に 1 回 1 時間半の散水と、1 週間に 3 日 30 分ずつ散水では随分と効果が違うようです。もちろん、分けて水やりをしたほうが効果的です。勉強方法もそれと同じです。それはなぜか？また次の機会に書いてみたいと思います。

【連絡】来週の 17 日(月)、18 日(火)の 2 日間、放課後質問日を設定します(1 時間程度)。勉強していてわからないところがあれば、先生に遠慮なく聞いてください。これからも、テスト期間に質問日を設けていく予定です。

